

●リーダーに必要な資質

- ・防災に関心が高い(災害対策の経験があればより良い)
- ・行動力がある
- ・地域において人望が厚い
- ・自己中心的でなく、地域住民全体のために考えられる
- ・多数意見を取りまとめ、また、少数意見を尊重できる
- ・非常時の現場の状況を取り仕切る力がある
- ・他人に声をかけ、活動に参加させる力がある
- ・消火・救助・避難誘導・安否確認などに関する知識や知恵がある

平時時の自主防災組織の活性化を図る上で、このようなリーダーの重要性は言うまでもありませんが、災害発生直後の混乱した状況において、周囲の住民を消火・救助・避難誘導などの活動に導くことができるリーダーの重要性は非常に高くなります。

地域のイベントなどの機会を利用して地域の世話好きな方など潜在的な資質のある方を発掘し協力してみたいかがでしょう。

●組織の継続的な活動に

向けた人材育成

住民の皆さん一人ひとりが防災の対応の担い手であることを認識していただくとともに、今後も継続的な活動を行っていくためには、次世代を担う人

材の育成が大切です。地域のお祭やイベントを通じて、子どもたちにも、地域のつながりについて、知ってもらうことが必要になります。特に地域コミュニティが希薄になっているといわれている昨今、地域ぐるみで子どもたちを見守っていき、子どもにも自分も地域の一員であるという認識をさせることが大切です。

4. 日常的に行う防災活動

日常の防災活動として、具体的には次のようなものがあげられます。いずれも、地域住民に防災について関心と理解を高めてもらうことと、災害時の防災活動をすばやく的確に行うことを目的とした活動です。

① 防災に関する学習会や講演会の開催



② 防災意識啓発・効用のために広報紙などの発行



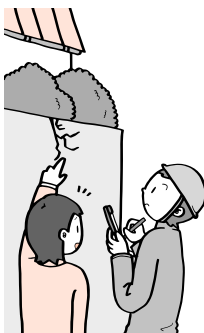
③ 地域災害史や災害体験談の掘り起こし



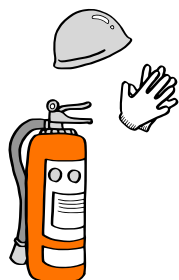
④ 防災マップや防災カルテの作成



⑤ 地域の危険要因や危険か所の点検



⑥ 防災資材の整備や点検



●実践的な訓練を積み重ねる

災害が発生したときに混乱しないよう、消火訓練や避難誘導訓練など、実践で役立つ各種訓練を日頃から繰り返し行いましょう。

●防災訓練を効果的に行うために

<p>実施要領の周知徹底</p> <p>住民に訓練の日時や場所などを広報して、訓練実施要領の周知徹底を図る</p>	<p>実施日時に変化を</p> <p>いろいろな方に参加してもらえるように、曜日や時間帯を変えて実施する</p>	<p>参加対象者をしぼる</p> <p>訓練の対象者を「壮年男子」「主婦や子ども」などにしぼり、内容を工夫する</p>	<p>参加意欲のわく内容に</p> <p>若い人のグループや家族で参加できるような楽しい内容を考えてみる</p>
--	---	--	---